

〔禁裏番衆所日記〕寛文三年二月八日、從大樹爲年頭御祝儀、大澤侍從參内、御太刀一腰、御馬代白銀千兩、蠟燭千挺、於清涼殿御對面、申次勸修寺前大納言、大澤侍從、牧野佐渡守等爲自分御禮、各御馬太刀白銀十兩進上、申次賴孝朝臣、各天盃頂戴、御配膳源大納言、御手長資廉、

〔輔世卿式中日記〕天保六年二月一日、今日高家武田大膳大夫、松平伊豆守爲東使同伴參内ニ付、獻物披露、役送俊迪、俊常、辰半刻參勤、同議奏、卿催、同刻天盃役送、參勤、今日松平伊豆守不參、主上無出御、空位天盃拜領也、手長藏人權佐恭光也、畢一統退出、申刻計也、但無出御之間、獻物不及披露也、其儀如左、先手長參進下段南第一間西ノ方ヨリ參進役送、次役送持參御銚子授手長下襦、

候西廂、次御獻奉行持參御盃、置御銚子上退入、次東使參進拜領天盃、訖退入、次役送撤御銚子、次手長退入、但所司代同伴之時、拜領天盃也、仍御獻奉行、東使拜領訖後亦更持參御盃、置御銚子上退入也、仍役送兩人、拜領後撤御銚子也、

〔續太平年表九〕安政六年正月十五日、將軍宣下ニ付、京都へ御使、茶宇嶋十反、干鯛一箱、酒井雅樂頭同上人差添被遣、且年始御使兼ニ付、和紙一箱、

將軍奉幣

〔幕朝年中行事歌合上〕七番 左 伊勢日光御代參
旅衣にしに、東に立わかれ行衛のどかにかすむ海山略○中

伊勢日光御代參は、七日の日これを命せらる、前の夜よりさうじ清まはり有て、兩御所おまし所に御著座、伊勢大神宮、日光御宮へ年の始の代參奉らる、つぎつぎ召出て仰事あり、皆高家の面々是をうけたまはる、此日朝とく執參各一人づ、出仕して、其事をさせらる、

〔萬天日錄〕寛文改 年中行事下附天和二年追加

一 伊勢太神宮御名代高家衆也、五ヶ年ニ一度宛被遣之處、兩宮へ御太刀御馬代黄金百兩宛御進獻之也、